

■平成27年度第9回（第251回）

都市経営戦略会議（夏の集中審議）結果概要

【日 時】 平成27年8月27日（木）15時25分～16時10分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、木下副市長、本間副市長、水道事業管理者、技監、
都市戦略本部長、総務局長、財政局長、総合政策監、経済局長、都市局長

【議 題】（1）国際シティホテルの誘致、コンベンションセンターの整備

< 提 案 説 明 >

国際シティホテルの誘致、コンベンションセンターの整備の概要について、経済局から次のような説明があった。

- ・ 初めに、「事業の位置づけ」については、本事業は、さいたま市成長戦略 国際観光都市戦略「さいたMICE」において、推進していくものとされている。
- ・ また、さいたま市観光振興ビジョンにおいても「MICE関連施設の整備の検討と国際的シティホテルの誘致」として調査・研究を行うこととしている。
- ・ 平成27年度は、本市における実現可能な国際シティホテルの誘致とコンベンションセンターの整備に向けた整備手法や運営手法、民間参入条件、必要な環境条件、相乗効果を生む周辺設備などの事業フレームの検討に資する「MICE需要調査（マーケットサウンディング調査）」を実施する。
- ・ 平成27年度第1回成長戦略本部会議において、本調査に必要な「調査地の選定」として、3つの調査候補地の中から「市営桜木駐車場」を調査地として選定することとした。
- ・ なお、コンベンションセンターについては、展示・イベント等の他分野に活用できる3,000㎡程の無柱空間を有するものとして調査を進めている。
- ・ MICE需要調査は、受託業者が、開発事業者やホテル事業者等に対しサウンディング（ヒアリング）による調査を実施し、その結果から事業フレームの検討を行うものであり、年度内に終わらせるよう進めていく。
- ・ MICE施設の整備には公設公営や公設民営、民設民営など、様々な整備・誘致手法が考えられるが、本調査の結果を受けて行う庁内検討及び事業フレーム検討の中で、市の果たす役割について検討していく。
- ・ 本事業の推進を図るため、事業フレーム策定後に、実施方針等の作成事業支援業務に要する費用やMICE施設建設等の事業者の公募に要する経費などに必要となる予算については、平成28年度に計上していきたい。

< 意見等 >

- ・ 本事業を進める上で、最も必要とする施設が何なのかを精査し進めてほしい。
 - ・ 他の施設との差別化などを踏まえると、アリーナを設置する場合、1,000～2,000席規模だと周辺施設と重複する。バスケットボール競技としての活用などを想定すると、5,000席程度の規模を設ける必要があるのではないか。
 - ・ 他自治体ではアリーナそのものを企業ユースとして、会議会場等に使用できるような施設がある。
 - ・ アリーナとコンベンション機能の役割、設置する場合の割合等について、ホテルとの親和性等の観点からも、より精査していくことが必要。
 - ・ イニシャルコスト、ランニングコストができるだけかからないような仕組み、手法について、知恵を出し合って進めてほしい。
 - ・ 市営桜木駐車場の土地についてはまだ購入時の市債の償還をしているのか。貸し付ける場合の方向性は。またホテル誘致のために補助制度を導入する事例もあり、土地の賃料についてもこうした観点から検討が必要になるのではないか。
- 市債の償還は終了している。貸し付けに関しては、今後の調査を踏まえ、市としてのスタンスを決めていく。
- ・ 予算要求の方向性として、中身を先行して議論した後に全体の事業費の要求という順序となると対応が難しくなってしまうので、全体像としての概算事業費を示した上で、中身の議論とセットで進めてほしい。

< 結果 >

- ・ 国際シティホテルの誘致、コンベンションセンターの整備の概要については、下記の点に留意するものとして了承する。
 1. 経済局と都市局は連携しながら、検討等のタイミングに齟齬をきたさないよう注意すること。
 2. オリパラに向けてタイトなスケジュールとなるため、MICE需要調査後のスケジュールを明確にすること。
 3. 全体事業費を示すこと。
 4. イニシャルコスト及びランニングコストを抑制する手法を検討すること（アリーナの設置を検討するならば、規模など周辺施設との差別化を図ること）。

< 会議資料 >

(資料) 国際シティホテルの誘致、コンベンションセンターの整備